

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：37117

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884089

研究課題名(和文)失われた注釈文献『主宰神の再認識詳注』の再構築に基づくシヴァ教再認識派研究

研究課題名(英文)A Study of Utpaladeva's Isvarapratyabhijnivrti

## 研究代表者

川尻 洋平 (Kawajiri, Yohei)

筑紫女学園大学・文学部・講師

研究者番号：70712206

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、シヴァ教再認識派の学匠ウトパラデーヴァ(ca.925-975)とアビナヴァグプタ(ca.975-1025)のそれぞれの貢献を明らかにするために、ウトパラデーヴァの失われた注釈『主宰神の再認識詳注』の断片を写本のマージナルノートから蒐集した。

マージナルノートを蒐集した結果、これまでに未発見であった『主宰神の再認識詳注』の断片が多数回収された。またシャーラダー写本のマージナルノートはほぼ共通しており、本文のみならずマージナルノートについても伝承されていることも明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to make clear the contributions of Utpaladeva (ca. 925-975) and Abhinavagupta (ca. 975-1025) to the Pratyabhijna school, by means of gleaning the new fragments of Utpaladeva's lost vivrti which are scattered in the margin of the manuscripts. By collating the marginal notes with the published texts of the Pratyabhijna school, I discovered lots of new fragments of the vivrti in the margin of the manuscripts. It is interesting in this connection that not only the texts of the Pratyabhijna school but also the marginal notes are transmitted in the tradition.

研究分野：印度哲学・仏教学、シヴァ教

キーワード：ウトパラデーヴァ 『主宰神の再認識詳注』 再認識派 アビナヴァグプタ 写本欄外註 マージナルノート

## 1. 研究開始当初の背景

近年、ローマ大学の Torella 教授は、シヴァ教再認識派を体系化したウトパラデーヴァとその体系を精緻化し大成したアピナヴァグプタについて、前者ウトパラデーヴァの思想的重要性を指摘している。このことは、シヴァ教再認識派研究が新たな段階に進んだことを意味する。

研究代表者を含めて従来の研究では、対仏教論理学派という外部との論争に主に焦点が当てられ、一方でウトパラデーヴァからアピナヴァグプタへ至る再認識派内部の展開や両者の見解の相違などはほとんど意識されていなかった。その要因として、ウトパラデーヴァが詳細な見解を述べたであろう『主宰神の再認識詳注』(以下、『詳注』)が散逸しており、ウトパラデーヴァの意図とアピナヴァグプタの解釈を峻別することが困難であったことが挙げられる。ウトパラデーヴァの失われた『詳注』は、彼の『主宰神の再認識に関する偈および注』に対する自注であり、『詳注』に対して、アピナヴァグプタの注釈『主宰神の再認識詳注に関する反省的考察』(以下、『詳注に関する反省的考察』)が現存する。かつて Rastogi 博士をはじめとする研究者が『詳注』の再構築を試みたが、アピナヴァグプタが注釈した語と引用 (pratika) をつなぎ合わせて文章を憶測するというものであったため、いずれも徒労に終わっている。『詳注』の写本を発見した Torella 教授による校訂テキストは、認識章第三日課第六偈から第五日課第三偈冒頭まで (写本現存部分) という非常に限られたものではあるが、写本に基づくという点において信頼に足る。しかしその校訂テキストも単一写本のみを資料としているという点で、改善の余地を残している。

研究代表者は、『詳注』の断片が『主宰神の再認識に関する偈および注』のデーヴァナーガリー写本 (Mss No. 4408, Akhila Bharatiya Sanskrit Parishad, Lucknow) のマージンに豊富に含まれることを発見した。これによって、Torella 教授によって校訂された『詳注』の部分以外にも、『詳注』が伝承されていることが判明した。

研究代表者は、これまでに 30 本以上のシヴァ教再認識派文献の写本を蒐集してきた。そしてそれらのうち、およそ半数の写本にはマージナルノートが付されている。その中でも、『詳注』の断片が文単位で存在する可能性は高い。そこから回収される断片に基づいて、『詳注』の一部を再構築することは十分に実現可能である。そして『詳注』が、一部であれ校訂されつつある今、資料的制約によりこれまで詳細に研究されることがなかったアピナヴァグプタの『詳注に関する反省的考察』も研究される環境が整ったといえよう。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、シヴァ教再認識派文献の

写本のマージナルノートを網羅的に蒐集することに基づいて『詳注』を再構築すること、そして、ウトパラデーヴァが体系化したシヴァ教再認識派の神学体系をアピナヴァグプタがどのような点で発展・精緻化させたのかを明らかにすることである。

具体的目的は以下の通りである。

### (1) マージナルノートインデックスの作成

シヴァ教再認識派文献の写本を可能な限り入手し、そこに残されたマージナルノートを網羅的に蒐集する。蒐集したマージナルノートは、ディプロマティックエディション、校訂テキスト、翻訳研究 (英語) を含むマージナルノートインデックスを作成する。これによって、どのような文献的バックグラウンドのもとで再認識派文献が伝承されてきたのかを明らかにする。

### (2) 『詳注』の断片を対象とする文献学的研究

蒐集したマージナルノートの内、『詳注』の断片については、アピナヴァグプタの『詳注に関する反省的考察』に対応する注釈部分に基づいて推定することが出来る。推定された『詳注』の断片について、対応する『詳注に関する反省的考察』も併せて、校訂テキストと翻訳を作成する。これによって、『詳注』全体を可能な限り再構築し、アピナヴァグプタがウトパラデーヴァの『詳注』をどの程度忠実に注釈し、何を付加しているのかを明らかにする。

### (3) 『詳注』および『詳注に関する反省的考察』認識章第四日課の文献学的研究

断片的な情報から、『詳注』で敷衍されたウトパラデーヴァの思想の全体像を把握することは困難である。よって、一定の範囲で彼の思想を把握するために、日課全体が現存する『詳注』認識章第四日課「想起能力の確定」を『詳注に関する反省的考察』と併せて読解する。

### (4) ウトパラデーヴァとアピナヴァグプタの思想的独自性の解明

(2) と (3) の文献学的研究の成果に基づいて、アピナヴァグプタがどのようにウトパラデーヴァの議論を発展・補完しているのか、両者の独自性を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) マージナルノートの蒐集および校訂テキストの作成

本研究が対象とする『詳注』の断片を効率的に蒐集するために、まずすでに校訂テキストが現存する『詳注』第一章第四日課に対するマージナルノートを集中的に調査する。この作業によって、それぞれの写本が背景としている文献群を明らかにし、『詳注』の断片を含む写本から優先的にマージナルノートの蒐集を行う。原典が確定されない断片の校訂テキストと翻訳を作成し、『詳注』の断片を推定する。

マージナルノートは、欠落あるいは不鮮明

な箇所が少なくない。それらの難読箇所については写本研究の専門家でもある Acharya 教授（京都大学）と Vasudeva 博士（京都大学）に協力を仰ぐ。

蒐集された『詳注』断片について、校訂テキストと翻訳研究を作成する。

## （２）写本蒐集

すでに研究代表者は多数の写本を入手しているが、マージナルノートの研究を中心に据えていることから、より多くの写本が必要であることはいうまでもない。よって、研究代表者がまだ調査していないグジャラート地方、ラジャスターン地方の写本調査を行う。

## （３）既出版刊本の脚注部分の電子データ化

カシュミールから出版されたシヴァ教関連の文献には、写本のマージナルノートそのまま引用した脚注が多数含まれている。脚注部分の検索の便宜を図るため、その脚注部分を電子データ化する。

## （４）テキスト読解

『詳注』認識章第四日課をアピナヴァグプタの『詳注に関する反省的考察』に基づいて読解する。『詳注』に関しては、Torella 教授によって用意されている校訂テキストを、新たに発見された断片をも参照しながら批判的に検討する。『詳注に関する反省的考察』については、二本の写本を使用して再校訂テキストと翻訳を作成する。

## 4. 研究成果

### （１）写本蒐集に関して

ジョドプールの Rajasthan Oriental Research Institute (RORI) を訪れ、シヴァ教再認識派写本のデジタルデータを手に入れた。残念ながら、マージナルノートを含むものではなかったが、『タントラヴァタダーニカー』をはじめ多数の写本を入手することが出来た。またウッジャインに多数のシャーラダー写本が保管されていることから、調査を計画したが、時間的制約により断念せざるをえなかった。

### （２）『詳注』断片に関して

これまでに蒐集した写本に関して、すでに校訂テキストが存在する『詳注』認識章第四日課を校合した結果、ラクノウのデーヴァナーガリー写本以外にも、『詳注』の断片が含まれていることが確認された。興味深いことに、シャーラダー写本のマージナルノートに関しては大部分が共通しており、写本の当該テキストだけではなくマージナルノートもそのまま伝承されている可能性が高い。一方で、ラクノウのデーヴァナーガリー写本は、シャーラダー写本以上に、『詳注』を含んでいることから、その重要性がより一層明確になった。その写本が『主宰神の再認識に関する偈および注』であることから、『主宰神の再認識に関する偈および注』写本についてもさらに蒐集し、マージナルノートを検討する必要がある。

デーヴァナーガリー写本の重要性を考慮して、デーヴァナーガリー写本に関する作業

を集中的に行った。マージナルノートの『詳注』断片を蒐集し、それらのディプロマティックエディションに関しては作成を終了した。それらをもとにした校訂テキストおよび翻訳研究に関しては、全体の3分の2まで終了しているが、『詳注』に対応する『詳注に関する反省的考察』の読解が遅れている。今後作業を継続し、ディプロマティックエディション、校訂テキスト、翻訳研究を含むマージナルノートインデックスを完成させる必要がある。

### （３）テキスト読解

『詳注』認識章第四日課のテキストに関しては、マージナルノートから回収された断片によって、僅かながらテキストの訂正をなした。マージナルノート蒐集を集中的に行ったために、『詳注』認識章第四日課のテキストの再検討および試訳は完了したが、『詳注に関する反省的考察』に関する作業は、全体の3分の1にとどまる。『詳注に関する反省的考察』の作業を継続する必要がある。

### （４）思想研究

「独自相」(svalakṣaṇa) に関して、ウトパラデーヴァとアピナヴァグプタに決定的な相違を見いだすまでには至っていない。このことは図らずもウトパラデーヴァの重要性を認識させるものと考えられる。

また「原理」(tattva) に関して、ウトパラデーヴァは、語源的分析を通じて世界展開の質料因となりうるものとみなしているのに対して、アピナヴァグプタは、明示的にそれを普遍(sāmānya) に等しいものと述べている点は、アピナヴァグプタがより体系を整合的にしようとしたとも考えられる。

ウトパラデーヴァとアピナヴァグプタの思想的差異に関しては、ようやく資料が揃いだした段階であり、結論を導くには至っていないが、ウトパラデーヴァが体系化した神学体系と世間的常識とのギャップを、アピナヴァグプタは埋めようとしていたことが予想される。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

川尻洋平、「シヴァ教神学の存在論」、『南アジア古典学』(九州大学インド哲学史研究室) 査読有、第 10 号。

Yohei Kawajiri, New Fragments of the *Īśvarapratyabhijñāvivṛti* (2), in Proceedings of Japan-Austria International Symposium on Transmission and Tradition: The Meaning and the Role of “Fragments” in Indian Philosophy, forthcoming. (査読有)

〔学会発表〕(計 2 件)

Yohei Kawajiri, “The Pratyabhijña school’s

Criticism of Buddhist's svalaksana,” 5<sup>th</sup> International Dharmakīrti Conference, 2014.8, Heidelberg (Germany).

Yohei Kawajiri, “Importance of the Marginal notes in the Sanskrit Literatures,” International Seminar ‘Grammatical theories in Sanskrit and Malayalam from Paṇini to Kerala-Paṇini,’ 2014.2, Trivandrum (India).

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者 川尻 洋平  
(Yohei Kawajiri)

研究者番号：70712206  
筑紫女学園大学・文学部・講師

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：